

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (299)

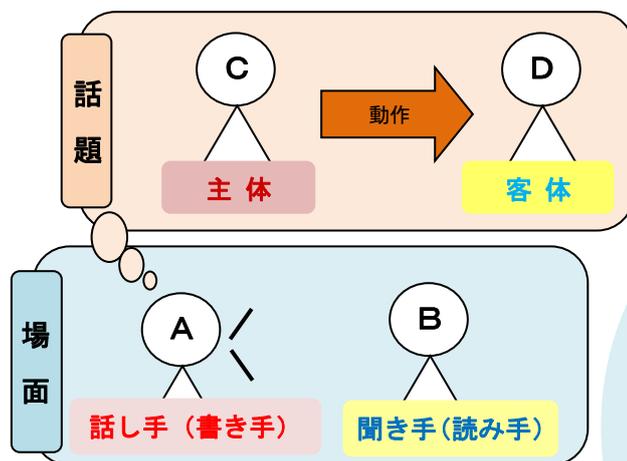
話された内容

タモツ君のお母さんがタモツ君のおばあさんと話しています。

「私がお義母さまにお話しするというのは、話し手の私が聞き手のお義母さまにお話しするということではないのですか。」

「話し手・聞き手というのは、会話をしている場面でのことなのよね。その場面で、「お話しする。」というとき、誰が誰に「お話しする」のかは言われていないけれど、話された内容（話題）になるのね。話し手と「話す」主体とが一致し、聞き手と「話す」客体（わかりやすくいうと、「話される」人）とが一致するので、ごちゃごちゃするけれど、話し手の和子さんが聞き手の私に「和子さんが私にお話しする。」と言う、ということなのね。」

「そうか。だから、話し手の私が「お話しする」という謙譲語で「話される」人であるお義母さまを敬うということになるのですね」



古典文学のように、「話題の人物」と「場面の人物」を別人だと考えると、わかりやすいわね。

古典文学ではAが書き手（作者）Bが読み手（読者）、CとDが作中の登場人物となりますね。CがDにする動作を、AがBに伝える、ということですね。

